

令和 6 年度 東洋大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに係る自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学部学科のカリキュラムにあわせて、4つのプログラムを展開している。 情報連携学部(6科目):プログラムの全科目が必修となっており、各科目で300名程度履修している。修得率は83.5~93.4%である。 総合情報学部(2科目):30~50%程度履修している。修得率は95%程度である。 国際学部グローバル・イノベーション学科(2科目):10%程度履修している。 修得率は2科目で差があり、修得率が高い科目は100%、低い科目は25%である。 上記以外の学部学科(2科目):全体で3%程度履修している。修得率は73.6%、86.6%である。
学修成果	各プログラムにおいて、授業ごとに講義の目的・内容や学修到達目標を設定しシラバスで公開している。また、授業内容を踏まえ、授業担当教員が指導方法や事前・事後学修で学習効果を高めるための工夫を凝らしている。授業終了後には、プログラムまたは科目単位で学生アンケートを実施し、その実施結果を授業担当教員へフィードバックするとともに、全学カリキュラム委員会にて確認している。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	プログラムまたは科目単位で学生アンケートを実施し、学修内容の理解度等を確認するとともに、授業担当教員へ実施結果をフィードバックし授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和6年度に実施したアンケートでは、授業の分かりやすさや授業の魅力といったアンケート項目に対し、70~90%の受講者が肯定的な回答であった。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラムの対象者全員に対して、年度初めに本学の公式アプリで本プログラムの周知を行った。特に情報系ではない学部において履修者数が少ないため、今後はプログラムをより浸透させるために、その他の媒体等での働きかけも行っていく。また、将来的にコースを増加することや全学部で必修化することで全体の底上げを図り、数理・データサイエンス・AI教育を強化していきたい。

学外からの視点	
教育プログラム 修了者の進路、 活躍状況、企業 等の評価	令和 5 年度から開始したプログラムのため、進路、活躍状況等は今後対応していく予定である。
産業界からの視 点を含めた教育 プログラム内 容・手法等への 意見	令和 5 年度に外部評価を実施し、その後プログラムに変更は生じていないため、外部評価を実施していない。今後プログラムの変更を予定しているため、変更後に外部評価を実施する予定である。
数理・データサイ エンス・A I を「学 ぶ楽しさ」「学ぶこ との意義」を理解 させること	プログラムまたは科目単位で実施した学生アンケートでは、授業の魅力や学びに関する自己評価といった項目で 70～90%の受講者が肯定的な回答であった。実施結果は授業担当教員へフィードバックし、授業改善に活用していく。
内容・水準を維持・ 向上しつつ、より 「分かりやすい」 授業とすること	プログラムまたは科目単位で実施した学生アンケートでは、授業の分かりやすさの項目で 70～90%の受講者が肯定的な回答であった。実施結果は授業担当教員へフィードバックし、より「分かりやすい」授業となるよう、授業改善に活用していく。また、実施結果を踏まえ、学生のレベルや希望にあわせたコースやプログラムの体系等、今後の改善に活用していきたいと考えている。

令和 7 年 3 月 27 日
東洋大学 全学カリキュラム委員会